

○ V期 ～自然とのかかわり～

寒いからたき火をして温まろう。(落ち葉を集めて)

このカブ、おいしいかな？ (ほし組)

たこ揚げ面白い！ (雪の中で)

大きな雪だるま～。

うみ組

このカブは小さいな・・・(この後、みそ汁にして食べました)

ほし組

二十日大根をお願いします。(漬物にしてもらいました)

はな組

ブロッコリーだあ。

飼育舎

ウサギ、あったかいね。(寒い中だと、温かさがよく分かります)

外側は赤なのかじったら (中が) 白かった～。

寒い中でも、体を動かせばへっちゃらだよ。(ドッジボール、長縄跳び)

土の中に氷があるよ。

霜柱って言うんだよ。

これ氷だよね！？ (砂場シートの裏に氷ができていました)

チュウリップが咲いてる！

つめた～い！ (寒い朝、たらいの水が氷になりました)

おひさまの光が温かいね。(テラスでのお弁当)

もちも焼けたかな？ (寒かったけど、七輪を囲んで温かくなりました)

そろそろダンゴムシが出てくるかな？

気付く

自然への慈しみ

満足感

想像力

感動体験

対象児 年長児 (男A児・B児)

記録日 平成21年 2月初旬

場面 ハクモクレン

かかわりの対象 人 もの 自然

これまでの姿

立春が過ぎた頃、三寒四温の言葉通り、暖かい日と寒い日とが入れ替わり続いていた。子どもたちもこの季候を肌で感じ、「今日は暖かいね」「今日は寒い・・・」と言葉に表す姿が見られていた。

そんな中、園庭のハクモクレンのつぼみの皮がポロポロと落ち、その皮を集めながら、ハクモクレンのつぼみの変化に気付く子どもたちが見られた。

子どもの姿

保育者の援助

- ハクモクレンのつぼみの皮に気付く。
A「(ハクモクレンの皮を持って) これを集めよう。
フワフワしているよ」
B「ほくも欲しい。どこにあるの?」

- 保育者に集めたハクモクレンの皮を見せに来る。
A「先生、こんなにいっぱい落ちてたよ」
保「(ハクモクレンのつぼみを持ちながら) これは、
ハクモクレンのつぼみから落ちた皮だよ。ほら」
B「ここから落ちてきたの?」
保「そうだよ。同じ皮があるでしょう?」
A「本当だ。つぼみが(皮を)脱いだんだね」
保「どうして皮を脱ぐんだろうね・・・」

- ハクモクレンの皮を拾い続ける。
B「ここにもあるよ。(袋が) いっぱいになった」
A「いいな～、ほくも欲しいな」
保「(落ちていた皮を指して) ここにもあるよ。この皮が落ちたつぼみなんだけど、これ(小さめのつぼみ)と比べてどう?」
A「大きいね」
保「春の準備をしてるのかな?」
B「いつ花が咲くかな?」

- 自分で見付けて興味をもつ姿を見守った。

- ハクモクレンのつぼみの皮を集めたことを喜ぶ姿に共感し、ハクモクレンのつぼみの皮であることに気付くことができるような言葉掛けをした。

「これは、ハクモクレンのつぼみから落ちた皮だよ。ほら」

- 子どもたちの「脱いだんだね」という素直な表現に共感し、さらに、自然の不思議に興味をもつことを期待して言葉掛けした。

「どうして皮を脱ぐんだろうね・・・」

- つぼみの大きさに違いがあることや花を咲かせるための準備をしていることに気付くことができるような言葉掛けをした。

「この皮が落ちたつぼみなんだけど、これと比べてどう?」

「春の準備をしてるのかな?」

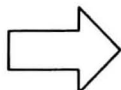
考 察

子どもたちは、これまでの経験から、園庭の様々な木々の変化に気付き、遊びの中で自然と変化や面白さを感じている。

子どもたちが「不思議だな」「面白いな」「これは何だろう」などと、心を揺り動かし、自然と向き合う姿を大切にしながら、今回の事例ではハクモクレンの成長に気付いたり、感じたりすることができるように一歩踏み込んだ言葉掛けを心掛けた。子どもたちが自然とのかかわりの中で、主体的に自然の素晴らしさを感じ取る姿を大切にすることが、私たち保育者に求められていると考える。決して知識を与えることではないことを心得ながら、子どもたちが心を揺り動かされる体験を多くもつことができるような環境構成に努めていきたいと思う。

本事例から見られた子どもたちの自分らしさの広がり

つぼみの皮を集めることに興味をもつ姿



ハクモクレンの皮であることに気付く、ハクモクレンの成長を感じる姿

気付く

自然への慈しみ

感動体験

満足感

対象児 年長児（女A児）

記録日 平成21年 2月13（金）・16日（月）

場面 不思議な鳥

かかわりの対象

人

もの

自然

これまでの姿

幼稚園の園庭では、四季を通じて様々な動物や植物に出会うことが出来る。子どもたちは、その季節ごとに出会う動物や植物との触れ合いや植物を使った遊びなどを積極的に楽しんでいる。

また、園庭には実のなる樹木が多く、様々な野鳥も訪れており、その様子を興味津々に見ている子どもたちの姿も多く見られる。

子どもの姿

保育者の援助

〔2月13日〕

- A児が園庭の木をじっと見ている。

A「不思議な鳥を見付けたんだ」

保「どんな鳥だったの？」

A「う～ん、小さくてかわいかった」

保「小さくてかわいかったんだ」

A「そうだ！お家に帰って（その鳥の）絵を描こうと」

保「描いたら見せてね」

A「うん！」

〔2月16日〕

- プレイルームの絵本コーナーにいたA児に保育者が声を掛ける。

保「この前の鳥さんのことだけど、お家で絵を描いてみたの？」

A「忘れちゃって、描けなかった」

保「こんな本を見付けたんだ。Aちゃんの見た鳥がのっているかな？」

- 2人で『みちかなとりのずかん』を見る。

A「あっ、この鳥だ」

保「メジロっていう名前なんだね。また見られるといいね」

A「うん！」

- 一緒にメジロや様々なページのページなどを見る。

- A児の発見したことや興味をもったことを受け止め、その喜びに共感するようにした。

- 同じ言葉を繰り返すことで、A児の思いを再確認し、同じ思いを一緒にもつようにした。

「小さくてかわいかったんだ」

- 保育者自身も楽しみに待っていることをA児に伝えた。



- 興味をもったことが調べられるように、本や図鑑を用意しておいた。

「こんな本を見付けたんだ。Aちゃんの見た鳥がのっているかな？」

『みちかなとりのずかん』

大島英太郎作 唐沢孝一監修 福音館書店

- 鳥の名前が分かったことを共に喜び、どんな鳥なのか、一緒に本を読んでいった。

考察

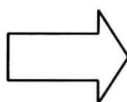
本事例は、興味をもった動物に対して、探究していく場面である。A児自身が「不思議な鳥がいる」と言い、「お家で絵に描いてみよう」という流れから、この鳥に心から惹かれ、目に見えるものとして残しておきたいという思いの高まりを感じた。保育者もA児の言葉に共感し、楽しみにしていることを伝えることで、A児の思いの持続を期待した。

また、A児にとっての不思議な鳥がどんな名前であるのかが分かるよう、図鑑などの本を準備しておき、A児が興味をもったことを調べられるように環境を工夫した。図鑑を見ることで、A児は、不思議な鳥が「メジロ」という鳥であることを知り、自分の身近にいろいろな鳥があることを知ることができ、抽象的な記憶が具体化したのではないだろうか。

これからも保育者として、動植物などの身近にある自然環境に耳をすませたり、目をこらしたりしていきたい。

本事例から見られたA児の自分らしさの広がり

見付けた鳥に
興味・関心をもつ姿



興味あるものに探究心をもつ
てかかわり、分かったことで喜びを感じる姿

対象児 年中児

記録日 平成21年 2月16日(月)

場面 ねずみの小判探し

かかわりの対象 人 もの 自然

これまでの姿

友だちと一緒に遊ぶ楽しさを存分に味わっている子どもたち。暖かい日を境に、園庭に出て遊ぶようになり、友だちと一緒に小さな実を拾ったり、花が咲いていることに気が付いたり、自然への関心が高くなってきている。「先生、見に来て!」「一緒に探そうよ」「私も見付けたい」という子どもたちの気持ちに寄り添いながら、保育者も一緒に園庭の探索をした。

子どもの姿

- 園庭で数名が「ねずみの小判」と呼んでいる小さな実を拾っている。
A「先生、ねずみの小判、こんなに見付けたよ」
保「わあ、とっても小さい実だね」
B「いいなあ、私も見付けたい」
C「先生、僕も欲しいな」
保「どこにあるのかなあ、Aちゃんに聞いてみようか」
- A児が張り切ってみんなを誘導する。
A「この木の実だから、この下を見たら見付かるよ」
- みんなで土や芝生の上を探し始める。
B「見付からないよ、これは小さい石だあ」
C「全然無い。先生、見付けたら僕にちょうだい」
A「みんな!小さいから、よ〜く見ないとだめだよ」
保「なるほど。ねずみの小判は小さいからよ〜く見ないといけないんだって」
(BC よ〜く見て探す)
B「やった!よく見たらあったよ。お米みたい」
C「僕もあった!Bくんの実より大きいよ」
- ほかの子どもたちもやってくる。
B「よ〜く見て探すんだよ」
C「よ〜く見たら見付かるよ」
保「この実は丸々していてオレンジ色だ」

保育者の援助

- 普段から、「先生にあげる」と言って子どもたちからもらった実や葉は、他の子どもが目に見えるように展示したり紹介したりして、園庭の自然に関心をもてるようにしている。
- 友だち同士のやりとりができるようになってはいるが、保育者に頼る姿も多い。保育者がすぐにアドバイスせず、友だちの考えを聞いたり、友だちの行動から気付いたりできるよう見守るようにした。
- 「見付からない」と言う友だちに対してアドバイスするA児。これまでの自分の経験から、見付けるコツを伝え合う姿が見られた。保育者もA児の言葉に耳を傾け一緒に楽しんだ。

「なるほど。ねずみの小判は小さいからよ〜く見ないといけないんだって」

- 集めた数だけでなく、見付けた実の形や大きさに関心をもっていたので、保育者も実を見て気が付いたことを伝え、共に発見を喜び合った。

「この実は丸々していてオレンジ色だ」

考察

本事例では、「ねずみの小判」と呼んでいる小さな実を探す遊びを通して、これまでの自然に親しむ経験の違いにより試行錯誤する姿、自分が経験して学んだことを生かして遊びを十分楽しみ、満足感を味わえた上で友だちに見付け方のコツを伝え合う姿が見られた。この活動を境に、「ねずみの小判」だけではなく、ツバキの花、ツクシ、ハクモクレンの蕾の皮を拾って集める遊びへと発展し、季節を感じる草花への関心が高まっていった。また、チューリップの成長を見守りながら、水を掛けたり、「チューリップの周りに草があると、大きくならないかも」と言って草むしりをしたりするなど、友だちと一緒に気付いたことを伝え合う喜びを感じている姿が見られるようになった。

保育者として、子どもから求められてすぐに全てを教えるのではなく、子どもの経験を生かしながら子ども同士で伝え合い、試行錯誤しながら満足感を味わえるような援助をしていきたいと思う。今後も自然の中での遊びを通して、好奇心、思考力の基礎が培われることを意識しながら、子どもたちにかかわっていきたい。

本事例から見られた子どもたちの自分らしさの広がり

友だちの持っている実に興味・関心を持ち自分たちも見付けようとする姿



気付いたことや自分が経験して学んだことを友だちと伝え合い、一緒に楽しむ姿

自然への親しみ

体を動かす楽しさ

試行錯誤

対象児 年中児

記録日 平成21年 2月23日 (月)

場面 雨上がりのトンネル工事

かかわりの対象 (人) もの (自然)

これまでの姿

子どもたちは冬の寒い日でも晴れていると園庭の遊具で遊んだり、砂場で山や川、海などをつくったりと体を動かして遊んでいる。一方、雨降りの日はプレイルームで積み木を使って迷路や基地などをつくったり、保育室でままごとや折り紙を折ったりして遊んでいる姿が見られた。

子どもの姿

- 水はけ用の溝を土を入れて埋めようとしている。
保「そこね、水をなくすために掘ってあるんだよ。だから、埋めないで」
A「えー、そうだったの」
B「知らなかった」
保「そうなんだ」
C「じゃあ、みんなで工事しよう」
AB「ようし、がんばるぞ」
D「僕は反対側をしてくる」
A「葉っぱがたくさん入ってるよ」
B「全部どかさう」
- 泥がはねるのも気にせずみんなで溝の中をきれいにする。

保育者の援助

- 以前保護者に美化作業でトンネル入口の水がはけるようにと掘ってもらった溝だったので、埋めるとトンネルの水がたまってしまうてくならないことを伝えた。
- 雨水や落ち葉や土砂を溝から出すために作業しやすい足場をつくったり、散らばっているスコップなどの道具をじゃまにならない場所に移したり、子どもたちが作業をしやすいように手伝った。

考察

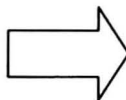
雨上がりの園庭は、晴れた日に見られるもの以外のものがいろいろとある。落ち葉や折れた枝、枯れ草、葉っぱの上の水玉、大小の水たまりなど子どもたちが興味をもちそうな自然事象である。

子どもたちは溝にたまった雨水や落ち葉、枯れ葉、土や砂を見て乾いた土を使って埋めた方が歩きやすいのでは、と考えたのかもしれない。水抜き用の溝であることを説明するとたまった水が流れるように溝の中の落ち葉や土砂、雨水を自分たちの手で取り除き始めた。雨上がりの水たまりをなんとかしようと積極的に仲間とがんばる姿を見守ったり、作業しやすいように、環境を整えたりする援助を心掛けた。子どもたちは、トンネル工事という共通のイメージをもってさらに楽しく活動する姿が見られた。

今回の事例のように子どもたちは、自然を自分たちの生活の中に取り入れ、遊びの一つとして楽しむ姿が見られる。様々な自然事象とうまく付き合う術を伝えたり、それをきっかけに友だちとの活動が広がる場面を大切にしたりしていきたい。

本事例から見られた子どもたちの自分らしさの広がり

仲間と楽しく遊ぶ姿



仲間と目的をもって活動する姿

これまでの姿

温かい日が大分増え、園庭には多くの草花が咲き出している。子どもたちも草花（ハクモクレンやツクシなど）の開花に喜びを感じるとともに、今まで育ててきたクロッカスの開花を待ちわびたり、咲いた花を眺めたりするなどして自然と触れ合っている。そんな中、本事例の週は、雨も多く、雨上がりの合間に園庭に出掛け、園庭を探検したり、自分の好きな遊び（ままごとなど）をしたりして楽しんでいた。

子どもの姿

- クスノキの下でままごとをしていると、再び小雨が降ってくる。
保「また、雨が降ってきたね」
A「先生、雨は降ってないよ」
B「でも、向こうは降っているね」
保「そっか。ここは雨降っていないね。ここは木の下だから木の枝や葉っぱが傘みたいになっているのかな」
B「じゃあ、この木は大きい傘だね」
A「大きいテントじゃない？」
C「大きいおうちかも」
保「大きいテントかな。大きいおうちかな。こうやって雨に濡れないようにすることを雨宿りって言うんだよ」
A「じゃあ、あっちの木（サクラの木）で雨宿りできるかな」
- サクラの木の下まで行き、再び保育者の元に戻ってくる。
A「先生、あの木の下は雨降っていたよ」
B「だって、葉っぱがないもんね」
保「何で、この木(クスノキ)は葉っぱがあるのに、あっちのサクラの木は葉っぱがないんだろうね」
AB「えー、なんでだろう」

保育者の援助

- 子どもたちがイメージを膨らましやすような言葉掛けをした。

「ここは木の下だから木の枝や葉っぱが傘みたいになっているのかな」



- 子どもたちのイメージに共感しながら言葉を掛けた。

「大きいテントかな。大きいおうちかな。」

- 子どもたちが実際に、サクラの木の下までいく様子を見守るとともに、落葉樹と常緑樹の存在に気付くことができるような言葉掛けや「どうしてだろう」と自然の不思議さを感じることができるような言葉掛けを行った。

「何で、この木(クスノキ)は葉っぱがあるのに、あっちのサクラの木は葉っぱがないんだろうね」

考察

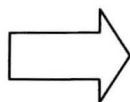
本事例は、クスノキの下で雨宿りをしたことで、「木」の大きさや落葉樹と常緑樹の存在に目を向け、その不思議さを感じた場面である。A・B児は「あっちの木(サクラの木)では雨宿りできるのかな」と探究心をもち、主体的に自然とかかわることができたのではないだろうか。

今回の場面では、子どもたちが「どうしてだろう」と思いをもち、自然の不思議さを感じたり、自然への親しみをもったりすることへとつながるといいなと考え、言葉掛けを行った。

今後も、子どもたちが様々な側面から自然と触れ合い、自然への探究心や不思議さをもつことができるように言葉掛けを行ったり、見守ったりしていきたい。

本事例から見られた子どもたちの自分らしさの広がり

木と触れ合う姿



木の大きさや自然の不思議さを感じる姿

場面 二十日大根の収穫から	かかわりの対象 人 もの 自然
<p>これまでの姿</p> <p>11月にまいた二十日大根もぐんぐん成長し、収穫の時期を迎えた。採れたての二十日大根を流水で洗い、試食すると「(中は)白い!」「おいしい」「葉っぱはちょっと苦いよ」などと、味わった感動を言葉で表現している。家庭でも持ち帰った大根も親子で調理したり、味わったりしたようだ。</p> <p>ある日、畑で二十日大根を採っていると、「あのね、二十日大根ってね、お漬け物にするとおいしんだよ」というある男児の言葉に、ほかの子どもたちも「お漬け物?」「食べた〜い」と、二十日大根を漬け物にして食べることに興味をわいたようだ。</p> <p>そこで、27日の給食のときに特別メニューとして、二十日大根を漬け物にして食べることにし、子どもたちも楽しみにしている。</p>	
<p>子どもの姿</p> <p>○ 漬け物にする二十日大根を収穫する。 保「どんな二十日大根がいいかなあ」 C「葉っぱがいっぱいあるのがいいよ」 B「これは?丸いのが見えてる」 保「その二十日大根いいね。大きくておいしそう」 A「葉っぱもね、お漬け物にするんでしょ。たくさんあるのがいいよ」 D「先生、これ洗って食べてもいい?」</p> <p>○ 二十日大根を洗う。 E「お漬け物、早く食べたいなあ」 A「先生がお漬け物にするの?」 保「あら、誰がお漬け物にするんだと思う?」 C「私、知ってる。給食の先生でしょ」 D「プレイルームの横のお部屋にいるんでしょ」 保「よく知ってたね。今日お漬け物をつくってくれる先生は、給食の先生たちなんだよ」</p> <p>○ 二十日大根を給食室へ運ぶ。 全「お漬け物にしてください」 調「たくさん採れたね。大きなあ。おいしい漬け物つくるね。待っててね」</p> <p>○ 漬け物を味わう。 A「おいしい」/B「おかわりある?」 保「採れたての二十日大根のお漬け物、おいしいねえ」 E「私(葉っぱ苦手だけど)、ご飯と食べてみる」 C「おいしい。先生、あとで給食の先生に『ありがとう』って言いに行こう」 D「私も一緒に行く!」</p>	<p>保育者の援助</p> <p>○ 子どもたちと会話をしながら、葉の数や形、大きさ等に注目できるような言葉掛けに努めた。</p> <p>「どんな二十日大根がいいかなあ」 「その二十日大根いいね。大きくておいしそう」</p> <p>○ 子どもたちと一緒に二十日大根を洗いながら、調理員を意識できるような言葉掛けをするように努めた。</p> <p>「誰がお漬け物にするんだと思う?」 「今日お漬け物をつくってくれる先生は、給食の先生たちなんだよ」</p> <p>○ 子どもたちと調理員のやりとりを見守りながら、子どもたちの気付きに共感するようにした。</p> <p>○ 子どもたちと一緒に二十日大根の漬け物を味わいながら、楽しい給食の時間となるような雰囲気づくりに努めた。</p>
<p>考察</p> <p>本事例は、友だちとの会話を楽しみながら二十日大根を収穫したり、味わったりする中で、新たな二十日大根の味わい方を知り、さらには、給食の調理員への感謝の気持ちをもった事例である。</p> <p>保育者は、子どもたちと一緒に二十日大根を収穫しながら、子どもたちの会話を見守ったり、会話に加わったりして、共に収穫の喜びを味わうようにした。また、二十日大根のそのものの形や大きさ、葉の数などに気付けるような言葉掛けをしたり、調理員とのかかわりが生まれるように調理員とのやりとりをじっと見守ったりするなどの援助の工夫を行った。二十日大根の収穫をきっかけにして、様々な「他」とのかかわりが生まれ、味わう感動も一層深まったように感じる。</p> <p>今後も、子どもたちがじつくりと様々なものにかかわる姿を大切にするとともに、季節の移り変わりに気付けるような、そのときならではの感動を味わえるような環境構成の工夫に努めていきたい。</p>	
<p>本事例から見られた子どもたちの自分らしさの広がり</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> 二十日大根を収穫し、感動を味わう姿 </div> <div style="font-size: 2em;">➡</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> 二十日大根の新たな味わい方を知り、楽しみにする姿や調理してくれる調理員の方に感謝の気持ちをもつ姿 </div> </div>	



～V期の事例より～

クラス	年 少	年 中	年 長
保育者の援助の在り方	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちの会話を見守ったり、会話に加わったりして、共に二十日大根の収穫の喜びを味わう。 ○ 形や大きさ、数に気付けるような言葉掛けをする。 ○ 自然の不思議さを感じることができるよう言葉掛けをする。（「どうしてだろう？」） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちの疑問にすぐにアドバイスをせず、子ども同士のやりとりを見守り、子どもがこれまでの経験を生かして会話する姿を大切にします。 ○ 子どもたちの発見と共に喜び合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちの素直な表現（言葉）に共感する。 ○ 自然の不思議さに興味をもつことができるような言葉掛けをする。 ○ 子どもが発見したことや興味をもったことに共感する。 ○ 子どもの知りたい気持ちに寄り添い、一緒に絵本を見たり、本を読んだりする。
環境構成の工夫・改善	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちがいつでも手に取ったり、匂いをかいだりすることができるよう畑を整えておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人の子どもが見付けたものを保育室に展示したり、全体に紹介したりして、園庭の自然に関心をもてるようにしておく。 ○ 子どもたちの遊びや作業のじゃまにならないように、使う道具を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 園庭の木々の変化を把握しておき、子どもたちが見付けることができたタイミングを見逃さないようにする。 ○ 興味をもったことを調べることができるよう本や図鑑を用意しておく。

かかわった自然とそれを使った遊びの例

《自然》

冬野菜（ハツカダイコン、カブ、ブロッコリー、ダイコンなど）、霜柱、氷、戸外の寒さ、寒い中での日差しの暖かさ、寒い中で体を動かす心地よさ、春の訪れ（花のつぼみが膨らんでいることや花が咲いている様子に気付く）など

《遊び》

戸外の寒さ：前日に容器に水を入れておき、翌日の朝氷が張っているかを見る

寒い中で体を動かす心地よさ：鬼ごっこ、ドッジボール、長縄跳び（体が温かくなってくるのを実感できる）

